令和７年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
成果報告書
①（基礎データ・公演事業の実績値等）

地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業	
団体名	公益財団法人北九州市芸術文化振興財団
施設名	北九州芸術劇場
内定額	4,830　（千円）

（1）令和7年度　助成対象事業一覧

※実績報告書様式13－2(2)事業内容 から転記してください。
　複数の事業類型（公演・人材・普及）が助成対象となっている場合は、それぞれすべて転記してください。

事業番号	事　　業　　名	実施日程	実施会場
人-01	高校生のための演劇塾	令和7年6月7日(土)～8月24日(日)	J:COM北九州芸術劇場 大ホール・小劇場・創造工房
人-02	キタゲキスクール2025	令和7年5月13日(火)～11月30日(日)	J:COM北九州芸術劇場 創造工房 稽古場、 セミナールーム、小劇場
人-03	地域コーディネーター育成プログラム2025	令和7年11月8日(土)・9日(日)	J:COM北九州芸術劇場 創造工房
普-01	キタQアーティストふれあいプログラム	令和7年9月3日(水)～ 令和8年2月10日(火)	北九州市内小学校・中学校 ・特別支援学校
普-02	ひとまち＋アーツ協働事業	令和7年5月15日(木)～ 令和8年2月1日(日)	J:COM北九州芸術劇場 北九州市立八幡図書館 市内市民センター
普-03	まちの記憶 演劇的アーカイブ事業	令和7年6月3日(火)～7月20日(日)	J:COM北九州芸術劇場 創造工房・稽古場 カラオケ房 夢こころ(門司区) ウイングプラザ(若松区)
普-04	「ブレイブ・スペース」	令和7年8月8日(金)～8月10日(日)	Ｊ:ＣＯＭ北九州芸術劇場 中劇場、小劇場

（2）〔基礎データ〕

※　交付申請書から転記してください。令和7年度について見込み等の暫定値だったものは、確定した数値を記入してください。

※　実施中止分を含まない実績値を記入してください。

【1. 事業本数】

項　　目			令和5年度	令和6年度	令和7年度
年間事業本数（※1）	主催事業		24	22	20
		公演事業	13	7	9
		（内、本助成対象事業本数）	0	0	0
		人材養成事業	3	5	4
		（内、本助成対象事業本数）	0	4	3
		普及啓発事業	6	8	5
		（内、本助成対象事業本数）	4	5	4
		共生社会事業			
		（内、本助成対象事業本数）			
		その他　内容：　自治体の受託事業	2	2	2

※1　事業の延べ実施回数ではなく、事業本数を記入してください。

【2. 貸館日数】

項　　目		令和5年度	令和6年度	令和7年度
貸館日数	ホールごとの貸館日数	429	447	473
	ホール名：大ホール　　座席数：1269	152	170	209
	ホール名：中劇場　　座席数：700	164	136	166
	ホール名：小劇場　　座席数：96～216	113	141	98
	ホール名：記入してください　座席数：記入してください			
	ホール名：記入してください　座席数：記入してください			

【3. 施設利用者数（事業利用者数）・開館日数・利用可能日数・利用日数・利用率】

項　　目			令和5年度	令和6年度	令和7年度
施設利用者数（※2）	主催事業入場者・参加者数		14,566	20,378	13,053
		公演事業	6,299	12,228	4,561
		人材養成事業	359	1,581	996
		普及啓発事業	3,581	2,024	2,806
		共生社会事業			
		その他　内容：自治体の受託事業	4,327	4,545	4,690
	貸館事業入場者・参加者数		108,817	122,730	156,958
	その他　内容：提携・共催事業入場者・参加者数		4,265	8,752	25,267
	計		127,648	151,860	195,278
開館日数			360	359	359
施設の利用可能日数　（＝365－（保守点検日数+休館日数））			225	250	278
施設の利用日数			166	196	224
施設の利用率(%)　（＝利用日数/利用可能日数）			73.8%	78.4%	80.6%

備考	
	北九州芸術劇場は大ホール・中劇場・小劇場の3施設を備える。 開館日数・施設の利用可能日数・施設の利用日数・施設の利用率については、大ホールの数値を記載した。

※2　実演芸術の公演等を鑑賞する者、ワークショップ等に参加する者、その他の劇場・音楽堂等の事業を利用する者の延べ人数を記入してください。
劇場・音楽堂等のスタッフや、併設施設（美術館、図書館等）のみへの入場者、事業関係者（出演者、指導者、スタッフ等）は除きます。
レジデントカンパニー・アーティストの稽古利用等の場合は「その他」に記入してください。

【4. 公演事業データ】

※ 交付申請書から転記してください。令和7年度について見込み等の暫定値だったものは、確定した数値を記入してください。

※ 実施中止分を含まない実績値を記入してください。

事業種別		事業本数	公演回数	入場者・参加者数	事業本数内訳						
					演劇	音楽	舞踊	伝統芸能	演芸	総合（※3）	その他
令和5年度	主催公演（※1）	13	33	6,299	11		2				
	共催・提携公演（※2）	12	31	4,265	8		4				
	貸館公演	249	338	108,817	25	98	28	1	10	4	83
	計	274	402	119,381							
令和6年度	主催公演（※1）	7	22	12,228	4		3				
	共催・提携公演（※2）	10	32	8,752	8		1	1			
	貸館公演	282	355	122,730	38	117	22	2	9	9	85
	計	299	409	143,710							
令和7年度	主催公演（※1）	9	17	4,561	7		2				
	共催・提携公演（※2）	14	45	25,267	11		2	1			
	貸館公演	273	368	156,958	31	120	29	1	8	2	82
	計	296	430	186,786							

※1 名義主催は除きます。
※2 名義共催を含みます。
※3 「総合」には、フェスティバル等における事業数を記入してください。

（3）各公演事業における実績値 及び 評価項目「創造性・企画性」に関する評価指標・目標（値）・実績（値）

・公演事業について、助成対象事業ごとに目標（値）と実績（値）を記入してください。
・入場者数・入場者率（目標値）は**「交付申請書」**から転記してください。
・有料入場者数・有料入場者率（目標値）および評価指標・目標（値）は**「評価補助シート」**から転記してください。

※有料入場者率（%）の計算方法＝**有料入場者数÷公演の設定席数（実績値）合計×100**

事業番号	事業名		入場者数	入場者率	評価指標	目標（値）	実績（値）
		目標値					
		実績値					
		目標値					
		実績値					
		目標値					
		実績値					
		目標値					
		実績値					
		目標値					
		実績値					
		目標値					
		実績値					
		目標値					
		実績値					

令和７年度

劇場・音楽堂等機能強化推進事業

成果報告書

②（評価）

地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業	
団体名	公益財団法人北九州市芸術文化振興財団
施設名	北九州芸術劇場
内定額	4,830　（千円）

（1）各公演事業の自己評価

「成果報告書①（基礎データ・公演事業の実績値等）」に記載の入場者率・評価指標・実績（値）等に言及しつつ、自己評価と自己評定（※1）を記入してください。

（※1）…S～D で記入してください。

※太枠内に記入してください

事業番号	事業名	自己評価

※行が足りない場合は適宜追加してください。

（２）自己評価

評価項目①：創造性・企画性

（※１）…S～D で記入してください。

評価の観点	・（企画力）地域の状況と芸術性とのバランスが取れた、特色ある事業計画である。 ・（制作力）優れたアーティストやスタッフ等が才能や技能を発揮し、高い水準の作品制作や各種事業が行われている。 ・（発信力・影響力）圏域内外の実演芸術を牽引する成果が期待できる。 ・（レジデントカンパニー・アーティスト）当該劇場を創造拠点又は準拠点とする実演芸術団体やアーティストを擁する。	
	・自由設定の観点（任意）（※２）	

（※２）…R７年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

	評価指標（※３）	目標（値）（※４）	実績（値）
公演事業			
人材養成事業	①人材育成事業への応募数（定員充実度） ②育成対象者のプログラム実施後の反応 ③講師陣による事業内容に関する評価	①３事業中２事業が定員数を上回る ②アンケートで「舞台芸術への興味が高まった」「自身の活動の専門性がより高まった」との回答が７０％以上 ③講師へのインタビューやフィードバックで高評価（前向きな発言など）を得る	①　３事業中２事業が下回った。(未達) ②　89%の回答を得た（達成） ③　「参加者自身が実践につながるものとして真剣に向き合う姿が印象的だった」「参加者・講師ともに熱量が高く、心を動かされる場面が随所にあった」「俳優として重要な感覚に生徒たちが到達することができた」「事業から広がる新たな展開に可能性を感じた。今後の活躍に期待したい」等の発言を得た。
普及啓発事業	①他者への理解度（新たな視点の獲得等） ②参加者の満足度 ③アウトリーチ事業における関係団体の評価	①アンケートで「刺激をうけたり人間関係に広がりが生まれたりした」、「人生に対する考え方、物事の見方、価値観が変わった」との回答が８０％以上 ②アンケートで「満足した」との回答が８０％以上 ③「またやりたい」「効果があった」との回答が８０％以上	①　85%の回答を得た（達成） ②　93%の回答を得た（達成） ③　98%の回答を得た（達成）
共生社会事業			

（※３）・（※４）…R７年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、事業類型ごとに太枠内に自己評価を記入してください。

公演事業	
自己評価	

人材養成事業	
自己評価	応募数（定員充実度）では、3 事業中 2 事業が目標を下回る結果となった。これは生徒数の減少（少子化）による参加者減や、修繕工事による休館の影響で事業実施時期を前倒したことが要因だと考えられる。育成対象者（参加者）への実施後の反応では、舞台芸術への興味や自身の活動の専門性の高まりについて 89%の回答を得ることができ、専門性が高く非常に充実した内容であったことが示された。また、参画した講師陣からも実績値で示したような肯定的な意見を得られ、若者流出・人口減少等の課題を抱え、舞台芸術を専門的に学べる環境がない地方都市の公共ホールが実践的に行う人材養成事業として評価をいただけた。今後も芸術性・専門性の高いプログラムを提供し、一過性でなく継続的に活動する人材の育成を目指していく必要性を強く感じた。

普及啓発事業	
自己評価	事業後のアンケートで「他者への理解度（新たな視点の獲得）」や「参加満足度」を図った。日常生活では味わうことのない刺激や普段の生活圏では出会うことのない人との触れ合いを通じて、人間関係の広がりや、物事の見方、価値観の変化について目標値を上回る回答を得ている。満足度についても、概ね 80%～100%の回答を得ることができた。また関係団体へのアンケートでも「またやりたい」「効果があった」などの回答が 98%となり目標を達成した。 いずれの事業も参画アーティストは地域の表現者が担い、それぞれのアーティストの創造性や表現性をワークショップにおける対話やそのプロセスに、より効果的に反映させることができた点において地域性と芸術性を高い水準で両立したといえる。

共生社会事業	
自己評価	

（２）自己評価

（※１）…S～D で記入すること。

評価項目②：国際性（任意）

評価の観点	・(国際プレゼンスの向上) 海外の劇場やフェスティバル、実演芸術団体等と連携し、国際共同制作や海外作品の招聘等に取り組んでいる。 ・(国際交流) アーティストや文化芸術関係者の招聘等、人的交流や情報交換が行われている。 ・(新たな創客への取組) 在住外国人や訪日外国人に向けて文化芸術体験の機会を提供する等、グローバルな視座で創客に取り組んでいる。	
	・自由設定の観点（任意）（※２）	

（※２）…R７年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

評価指標（※３）	目標（値）（※４）	実績（値）
①海外を拠点とする実演芸術作品の招聘 ②市内国際関係機関等との連携協力（広報協力等）	①２事業 ②３件	①　普及－04 および公演事業（助成対象外）１事業を実施 ②　広報協力１件（未達）

（※３）・（※４）…R７年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

自己評価	海外を拠点とする実演芸術団体の作品として、普及‐04「ブレイブ・スペース」を実施。「パフォーマーとの距離が近くてハラハラドキドキした。お互いに信頼し創り上げるステージで素晴らしいコンセプトだった」「とても美しく、力強く、すばらしい公演で満足した」といった声をいただき、海外作品ならではのダイナミックかつ美しいパフォーマンスで観客を魅了した。関連ワークショップでは、アーティストと子どもたちが言語の壁を超えて直接触れ合う機会を創出した。 また助成対象ではないが、複数の公共ホールと連携して台湾のダンスカンパニー「クラウド・ゲイト・ダンスシアター」を招聘し、ダンス作品を上演した。台北駐福岡経済文化弁事処との連携により、市内近郊在住の台湾関係者にも多くご来場いただき、今後にも繋がる新たな関係を築くことができた。

（２）自己評価

（※１）…S～D で記入すること。

評価項目③：地域文化拠点機能

評価の観点	・（文化拠点）地域の特性やニーズを踏まえ、地域の文化資源を活用するなど、地域の文化拠点として事業が組み立てられている。 ・（地域連携）地域の関係機関と連携・協力し、地域コミュニティの創生や社会課題の解決等に取り組んでいる。 ・（児童生徒への機会提供）次代を担う子ども達を対象とした鑑賞や体験事業が行われている。	
	・ホール利用サービス（貸館事業）の向上（任意）（※２）	
	・自由設定の観点（任意）（※３）	

（※２）・（※３）…R７年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

評価指標（※４）	目標（値）（※５）	実績（値）
①地域資源を活用した作品創作・発表 ②連携・協働する地域団体数 ③子どもを主体とした事業数 ④地域コミュニティの創生状況 ⑤貸館利用者の満足度	①２作品以上 ②２団体 ③３事業 ④アンケートで「人間関係に広がりが生まれた」との回答が８０％以上 ⑤アンケートで満足層（「とても満足」「まあ満足」）の回答が９５％以上	①　２作品（達成） ②　７団体（達成） ③　３事業（達成） ④　アンケート調査を行った事業の回答平均で 31%（未達成） ⑤　利用者へのアンケートでの回 97%（達成）

（※４）・（※５）…R７年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

自己評価	地域に残る「まちの記憶」をテーマに２つの区でそれぞれ作品を創作・上演。会場も地元の店舗や施設での実施にこだわり、観客と地域との新たな出会いと継承につながる機会となった。また市立図書館や５つの市民センターとの連携事業では、施設ごとに課題をヒアリングし、それぞれに適したアーティストとともに企画を実施し、各地域での課題解決に向けた足がかりとなった。子ども向けの事業においては、4 歳から鑑賞できる作品の上演や小中学校へのアウトリーチ、高校生への実践的な研修事業など幅広い年齢層を網羅して実施し、多くの子どもたちへ鑑賞や体験の機会を提供した。 対象事業への参加で「人間関係に広がりが生まれたか」への回答が目標を下回ったことについては、当該事業の性質として参加者が自分自身と向き合い、考えるものが多かったためと予想される。事業終了後、参加者同士での活動も自発的にいくつか動き出しており、事業への参加をきっかけにした新たな人間関係の広がりにつながっていることが期待できる。 貸館事業は、特色ある３劇場の機能を最大限に活かせる舞台技術の支援や提案、利用手続きから当日までをワンストップでサポートする体制で対応。現場で得た知見やノウハウの共有、事例のフィードバック等により次に活かし、持続可能な施設運営体制とすることでも高い満足度を継続していると考えている。

（2）自己評価

（※1）…S～D で記入すること。

評価項目④：多様性とアクセシビリティ

評価の観点	・（プログラムの多様さ）プログラムの種類や形態が多様で、幅広い観客や参加者に訴求する。 ・（参画者の多様さ）アーティストやスタッフとして参画する人々の属性（性別、年代、居住地、他）が多様である。 ・（アクセシビリティ）障がいの有無や年齢、性差、国籍、居住地、経済的状況等に関わらず、あらゆる人々と実演芸術をつなぐため、施設の構造・設備上の配慮、プログラム上の創意工夫やサポート、アウトリーチ等が行われている。	
	・自由設定の観点（任意）（※2）	

（※2）…R７年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

評価指標（※3）	目標（値）（※4）	実績（値）
①参加型事業（学校アウトリーチ事業除く）における 29 歳以下の参加者数	①全参加者数の３０％以上	①　70%（達成）
②参加型事業（学校アウトリーチ事業除く）における 60 歳以上の参加者数	②全参加者数の３０％以上	②　22%（未達成）
③劇場外で実施するプログラムの会場数	③5 か所以上	③　27 か所（達成）
④特別支援学校、特別支援学級へのアウトリーチ数	④3 件以上	④　3 件（達成）

（※3）・（※4）…R７年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

自己評価	全体的な参加者の属性としては 29 歳以下の参加率が高く、若年層の文化芸術活動への関心喚起という点で一定の成果が見られた。一方で、高齢層の参加は低い結果となったが、高校生向けなどの若年層を対象とした事業を除き一般参加者向け事業で集計した場合、60 代以上の参加者は全体の 62%となり目標を上回る結果であった。事業の実施内容やアプローチ方法を多様な世代に対応できるように工夫することで、幅広い層の参加を獲得し、地域の文化拠点施設としての役割を果たすことができた。 学校アウトリーチを含めた劇場外でのワークショップは、劇場からより離れた地域で実施した。これにより、劇場のことを知らない、まだ行ったことがない地域住民へ舞台芸術の力を届けることができ、芸術文化の享受における地域間格差の解消を図ることができた。また参加対象を子どもから高齢者まで広げることで世代間交流にも繋がった。 特別支援学校等でのアウトリーチにおいて、プログラム内容をホワイトボードに掲出し、今やっている事・これからやる事を分かりやすく明記し、突発的なことが苦手な生徒に配慮した。高齢者対象事業では、募集チラシの文字を大きく明記するなど読みやすさを重視して作成し申込に対するハードルを下げる工夫を行った。このように、実際の参加者の様子や特性などをフィードバックしていきながら、あらゆる人々が舞台芸術にアクセスしやすい環境を整えた。

（２）自己評価

（※１）…S～D で記入すること。

評価項目⑤：自由設定（任意）

評価の観点	①　創造性・企画性、②国際性、③地域文化拠点機能、④多様性とアクセシビリティ、⑥運営体制と持続可能性　の項目では成果や課題に言及しきれない事柄について、自己評価を行ってください。（※２）
	・ ・ ・

（※２）…R７年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

評価指標（※３）	目標（値）（※４）	実績（値）

（※３）・（※４）…R７年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

自己評価	

（2）自己評価

その他：エピソードやグッドプラクティス事例について

助成対象事業に関連して、心に響くような印象的な出来事や、他館の参考になるような好事例があれば、具体的にご記入ください。

◎普‐03「まちの記憶演劇的アーカイブ事業」
本事業は、地域でのフィールドリサーチと住民取材を通じて、その街に蓄積された生活史や記憶をもとに戯曲を創作し、その作品を取材対象地域の市民生活圏で上演・発表した点に特徴がある。来場者から「まちに息づく歴史や人に思いを馳せ、どんなまちにもまちと人の記憶があると感じた」といった声も寄せられ、創作から上演までを地域内で一貫して実施したことで、地域の記憶が演劇表現として構成され、住民が自身の生活圏を文化的視点から再認識する機会を生み出した。本取組みは、地域資源を活用した創作と地域内還元型の上演を組み合わせた文化創造の実践モデルとして、他地域でも展開の可能性があると感じている。

◎普‐04「ブレイブ・スペース」
公演に付随した関連ワークショップ（ジャグリング）では、小学 3 年生から中学 3 年生と参加者の年齢層が幅広く、順応性にもバラつきがあったが、アーティストや参加者同士でジェスチャーを交えて声を掛け合い、順番を入れ替えたり器具を交換したりしながら全員が楽しめるよう進めていた。言葉の壁を超えた国際交流に加え、年齢を超えた子ども同士の交流という点でも印象的な光景であった。

◎人‐02「キタゲキスクール 2025」
不登校の経験がある若者も参加しており、当初は自己表現に慎重な一面もみられたが、少人数での対話や演劇などのワークショップを通じて徐々に発言や提案が増え、役割を担うようになった。中盤以降は、意見整理や仲間との共有の場面において、リーダー的な関与も見られ、主体性や協調性、対人調整力の向上が確認できた。成果発表後には、継続的な創作活動への意欲として自ら劇団設立を検討するまでに至った。この変化は、演劇創作にまつわる活動が表現や技術の習得にとどまらず、自己肯定感の回復と他者との協働関係の再構築、さらに社会的活動への参加意欲の醸成に寄与することを示す具体的な成果であるといえる。

◎人‐04「地域コーディネーター育成プログラム」
ワークショップ・事例紹介・企画立案を、「体験する」「知る」「自分ごとにする」が相互につながるプログラムとしたことで、参加者の熱量を最後まで保ち続けることができた。特に企画立案プログラムでは「何をするか」だけでなく、「なぜこれをやりたいのか」という個人の思いや地域への願いが語られたことで、参加者同士の共感が生まれ、知識の共有を超え互いの心がつながる場となった。プログラムの最後に参加者から「自分の舞踊をみなさんに見てほしい」と申し出があり、全員が見守る中、深い感動が広がった。用意されたプログラムを超えて生まれたこの瞬間が、本事業の豊かさを表したといえる。また、事業終了後に参加者が自発的に SNS でのグループチャットを立ち上げ、近況や活動を共有する動きが生まれた。「出会って終わり」ではなく、参加者が主体的にコミュニティを継続・発展させており、劇場が人材育成の継続的な繋がりをつくるハブとして機能したと考えらえる。

（２）自己評価

評価項目⑥：運営体制と持続可能性

（※１）・（※２）…Ｒ７年度評価補助シートから転記すること。
※太枠内に記入してください

○「実現性」の項目より〈（ア）～（エ）〉

評価の観点	（ア）多様な財源の確保 予算計画が妥当であり、事業収入のほか、各種助成金や寄附金・協賛金等の獲得に努めている。	（イ）広報・営業力 広報計画が充実しており、券売や集客、会員制度等の拡充に努めている。
現状（※１）	・事業コンセプトや企画意図に合致した各種助成制度の検討 ・外部資金獲得のため令和７年度から寄付・協賛制度を運用開始	令和７年度有料会員 前年度からの継続率 64.2%
目標(値)（※２）	・視野を拡げ各種助成制度へ応募、活用 ・寄付協賛制度を通じ地元事業者等との連携強化に努める	有料会員の継続率を維持し、券売の基盤を強化
実績(値)	令和７年度は文化庁以外に民間団体の助成を獲得。寄付・協賛制度の運用開始により３８件の支援を受けた。また、主催事業において支援付チケットをテスト導入した。	令和７年度有料会員のうち、前年度からの継続率は 64.2%で、前年度に比べ－9.1%
団体の自己評価	寄付・協賛制度の初年度運用として、地元企業等から賛同を得た。単に支援の獲得にとどまらず、施設や公演に対する認知度向上にも貢献できた。	受付当日の定員到達が継続率低下の要因であり、このことは令和６年度事業の認知拡大の成果として評価できる。今後は、需要の高まりを踏まえ、定員の見直しなど制度の改善を検討する。

評価の観点	（ウ）他館連携 他の劇場・音楽堂等との事業連携や協力・支援を通じて、効果的で効率的な事業運営を行っている。	（エ）設置者 円滑な事業の継続のため設置者と適切に意思疎通を図っており、設置者による人材や財源の確保等が期待できる。
現状（※1）	当財団が管理運営する施設間の人事交流、広報及び技術部門の連携、会員制度や券売システムの統合運用による効率化を実施。	財団管理職に北九州市職員の派遣を受け、密な意思疎通により施設運営・事業実施の財源を確保。
目標(値)（※2）	現状の取組の継続、充実を検討。	現状の取組を継続、人脈を生かし文化部以外の部局とのネットワーク構築を図る。
実績(値)	財団が管理運営する施設間において、人材交流・広報・事務・経理・会員制度やチケット販売システムの統合運用など多面的な連携を継続した。自主公演事業では、同一ツアー作品を上演する他館と運営・広報面での協働体制を構築した。そのほか、劇場・音楽堂等運営に係る情報交換会や研修事業に参加。	所管部局との定例ミーティング等を通じ、指定管理業務の方向性共有と年度予算確保に繋げた。教育委員会と連携する等、文化振興の裾野を広げるとともに、芸術文化を振興する北九州市の政策連携団体（旧外郭団体）としての役割を果たした。
団体の自己評価	他劇場との連携は、制作・広報コストの削減だけでなく、職員の専門的視野の拡大にも資している。内外を問わず、関連性のある業務は、協働することで効率化を追求した。	令和７年度の新指定管理期間スタートにあたり、設置者との対等なパートナーシップの構築が一層重要となった。定例会議の定着により意思疎通の質が向上している。また、文化以外の部局との事業連携実績を積み重ねることで、劇場の社会的機能の多面的な発揮に努める。

○「持続可能性に関するチェックシート」より〈(オ）～（セ)〉

評価の観点	（オ）芸術監督 芸術監督等、劇場運営の芸術面を統括する人材が配置されている。	（カ）長期的経営 長期的視点に立ち、劇場運営を統括する、経営実務者が配置されている。
現状（※1）	実施している	実施している
目標(値)（※2）	現状を維持	現状を維持
実績(値)	現状を維持	現状を維持
団体の自己評価	劇場運営の芸術面を統括する人材として、今後も継続してプロデューサーの配置を行う。	劇場運営の経営実務者として劇場支配人、劇場事業課長を充て、今後も継続して配置を行う。

評価の観点	（キ）専門人材の確保 今日的な劇場運営に必要な職能や専門性を踏まえ、運営体制が整備されている。あるいは専門人材の確保や育成に努めている。	（ク）職制の整理 芸術監督、館長、支配人、プロデューサー、その他管理職の職位及び職能、一般職員の職務内容等が専門性を基に整理され、役割分担されている。
現状（※1）	実施している	実施している
目標(値)（※2）	現状を維持	現状を維持
実績(値)	現状を維持	現状を維持
団体の自己評価	令和７年度は舞台技術・プロデュース・広報の各分野において外部研修・内部 OJT を実施し、職員の専門性向上を図った。持続的な人材育成体制の構築が引き続きの課題である。	持続的な劇場運営を実現するため、段階的な内部人材の管理職登用を進めるとともに、業務単位の統括者を「係長」とするなど、業務を推進するための役割分担を明確化した。

評価の観点	（ケ）世代間バランス 年齢バランスを考慮した人材確保を行っている（若年層の雇用に努めている）。	（コ）ジェンダーバランス 女性管理職比率が 30%以上である。あるいは、女性の管理職やリーダー職への登用に努めている。
現状（※1）	実施している	令和７年度女性管理職　66.6%
目標(値)（※2）	現状を維持	現状を維持
実績(値)	現状を維持	現状を維持
団体の自己評価	令和７年度も若年層職員の採用・配置を継続し、世代間バランスの確保に努めた。劇場全体での世代バランス維持が重要であり、中長期的な採用計画の策定が課題となっている。	女性管理職比率は 66.6%と目標値（30%以上）を大幅に上回り、全国的にも高水準にある。引き続き管理職候補の計画的育成を進め、多様なリーダーシップが発揮できる組織風土を維持する。

評価の観点	（サ）ワークライフ・バランス 仕事と育児・介護等の両立支援制度を整備し、推進している。	（シ）コンプライアンス順守 情報セキュリティをはじめ、各種コンプライアンスの順守規定を策定し、必要な研修を行っている。
現状（※1）	実施している	実施している
目標(値)（※2）	現状を維持	現状を維持
実績(値)	令和７年度は、北九州市が実施するイクボス・プレイクボス研修を係長以上の職員に展開。	現状を維持
団体の自己評価	令和７年度はイクボス・プレイクボス研修を管理職全員に展開し、育児・介護との両立を支援する職場文化の醸成を図った。	他団体における情報漏洩事象や内部の事務ミス等が発生した際には、可能な限り速やかに対応・改善を図ることで、コンプライアンスの順守に努めている。

評価の観点	（ス）ハラスメント防止対策 職場内及び創作現場におけるパワー・ハラスメント、セクシュアル・ハラスメント等防止のための指針等を策定・周知し、必要な研修を行っている。	（セ）適正な契約事務 アーティストやスタッフと適正な契約書を交わしている。
現状（※1）	実施している	実施している
目標(値)（※2）	現状を維持	現状を維持
実績(値)	令和７年度は、カスタマーハラスメント対策マニュアルを策定し、全職員を対象に研修を実施。カスハラの定義、過去に発生した事例をもとにした対応方法などを学んだ。	令和７年度は、フリーランス保護法（特定受託事業者に係る取引の適正化等に関する法律）に照らし、契約書に付随する仕様書等各種様式を見直すとともに、組織全体に周知を行った。
団体の自己評価	カスタマーハラスメント対策マニュアルの策定や弁護士による全職員研修実施は、公共文化施設の現場ニーズに即した取組である。良好な就業環境の整備が、劇場利用者に対するホスピタリティ向上に資するものと捉えている。	公正取引委員会に照会をかけるなど、現状の改善に適切な対応を行った。引き続き法令改正の動向を注視し、契約事務の適正化を維持する。

（3）総評

※太枠内に記入してください。

団体の自己評価
北九州芸術劇場では【人材養成事業】【普及啓発事業】で採択を受け、両事業とも地域に根ざしたアーティストの参画のもと、芸術性と地域性の両立を基本方針として取り組んだ。 【人材養成事業】 ◎成果 事業終了後のアンケートでは、「舞台芸術への興味の高まり」および「自身の活動における専門性の向上」について、参加者（育成対象者）から高い割合で肯定的な回答を得たほか、参画した講師陣からも高評価を得、舞台芸術を専門的に学べる環境に乏しい地方都市における実践的な人材養成プログラムとしての意義が認められた。 ◎今後の課題・方針 引き続き、芸術性および専門性の高いプログラムを継続的に提供し、一過性の参加にとどまらない、参加者の長期的・継続的な芸術活動を支援するフォローアップ体制や段階的なプログラム設計等を検討しながら、着実かつ確実に地域の文化芸術に携わる人材の輩出を目指す。 【普及啓発事業】 ◎成果 本事業の多くのプログラムには、地域の表現者が参画している。各アーティストの創造性と表現性を、対話や実践のプロセスに効果的に反映させることにより、地域性と芸術性を両立することができた点が大きな成果といえる。参加者が日常から離れた刺激や多様な人々との交流を通じて、自己の内側に変化をもたらすという本事業の目的が達成されたことが、アンケート結果においても明示された。 ◎今後の課題・方針 参加者の反応を踏まえ手法や実施プロセスの工夫を重ね、より豊かな体験価値の創出に取り組むとともに、関係団体との連携強化により、事業の実施効果の波及を図っていく。また、作品鑑賞、芸術体験など芸術文化の享受の機会を劇場内外問わず細やかに届けていくことで、地域の“人”の活力を高めるとともに、芸術文化の力の価値を浸透させていく。 【ミッション・ビジョンを踏まえた振り返り】 令和７年度は、北九州芸術劇場のミッション・ビジョンに基づく計画を着実に実施した。これまでの人材養成事業・普及啓発事業で培われた地域の人材・資源を活かし、３作品を創造・上演。劇場に加え商店等でも上演することで、市民が舞台芸術に触れる機会を広げた（ビジョン１）。人材養成では対象を細分化したことで、参加者が事業後も主体的に活動を展開するなどの効果が定着した。育成対象者がスタッフとして参画し、普及啓発事業でアシスタントを務めるなど発展的な循環が生まれ、地域人材と市民のつながりが拡大している（ビジョン２）。また公演事業では、国内外の多様な作品を上演し、文学×演劇、テクノロジー×ダンス、演劇×ダンスといった、異なる分野が融合した表現の魅力を数多く提示した。数々の受賞作品をラインアップに加え、高い水準の芸術性と話題性を両立し、地域のにぎわい創出に貢献できたと考えている（ビジョン３）。今後も中核施設として強みを発揮し、ミッションの達成、「インクルーシブな劇場」の実現に取り組む。

備考